

# 「みんな楽しく子宮の話」

日本では年間約1万人が罹患し、約2900人が亡くなっている「子宮頸がん」。特に20~30代の若い女性に急増しており、10代も例外ではありません。検診やワクチンで「予知・予防ができるがん」と言われながら、検診受診率は先進諸国の8割前後に対し、日本は4割台といまだ低いのが現状です。早期に治療できれば多くの場合、その後の妊娠・出産も可能なだけに、定期的な検診が重要です。予防と早期発見に向け、県内の医療関係者と治療経験者らが意見を交わしました。

**\* 妊娠・出産の前から検診を**  
産婦人科医  
山本かおりさん(長野赤十字病院)



**\* 未受診の多い若い世代に危惧**  
細胞検査士  
浦野あさ美さん(相澤病院)



**\* 早期発見で負担軽減**  
治療経験者  
赤羽泉美さん(サザンパルポート奏者)



子宮頸がんはどんな病気ですか。  
山本 子宮下部の筒状の部位(頸部)にできるがん。20~30代の若い女性に増えています。発症のピークは30代後半です。

原因となるのはヒトパピローマウイルス(HPV)で、皮膚や粘膜に存在するありふれたウイルスです。性交渉のある女性ならほとんどが一生に一度は感染すると言われますが、感染してもすぐにがんになるわけではなく、9割の方は免疫力で排除できます。しかし1割が持続感染し、その一部の方ががんの一步手前の「異形成」に、さらに子宮頸がんへと、数年から10年程度かけて移行していきます。

浦野さんは、その細胞の異常を発見する検査に携わっています。  
浦野 検診で採取された細胞の中から

ワクチンの有効性は明らか  
小児科医  
増田英子さん(増田医院)



ためらっている間にがんは進行  
治療経験者  
鈴木真由美さん(飯田女子短期大学看護学科准教授)



もっと知って

# 若い女性に増えています 子宮頸がん

第8回

## 愛は子宮を救う in 長野

報告編



やまもと・ふみこ  
1944年生まれ。助産院や高齢者施設を運営するNPO法人「いのちの応援舎」(高松市)の前理事長。助産師の経験をもとに「性と命」の大切さを伝える活動を続けている



ステージを盛り上げたダンス

子宮頸がん予防啓発イベント「愛は子宮を救う in 長野」は9月3日、長野市若里市民文化ホールで開催しました。顕微鏡でがん細胞を見つける第一線の現場で働く検査士の団体、長野県細胞検査士会が主催し、今年で8回目。若い世代に向け、がんに対する正しい知識を持つことや、定期的な検診による予防と早期発見の重要性を訴えました。NPO法人「いのちの応援舎」前理事長で助産師の山本文子さんの講演、医師や子宮頸がん体験者らによるディスカッションのほか、会場には子どもたちのダンスや合唱、演奏などのステージ発表も展開。ロビーには、子宮頸がんが分かるパネルコーナーやがん相談コーナーを設けました。

### 講演 「いのち輝かせて」

NPO法人いのちの応援舎 前理事長 山本文子さん

中学生に性教育は早い。いまだに大人たちはそう言います。でも、「性」は「心」が「生きる」と書く。生きる話、命の話。死んじゃいかん、殺しちゃいかんという「命の教育」なんです。私は助産師です。産婦人科で、中学生の妊娠や性感染症の現実を見てきました。性的な傷害事件もたくさん起こっています。大人たちがもっと性の大切さを教えてほしい。誰からも聞けないから、週刊誌や漫画、アダルトビデオ...いやらしく描かれたものが知識になってしまう。セックスはいやら

性教育は「命の教育」  
ださい。どちらも親と子をつなぐ大事なものです。そして「僕、どこから生まれたの？」とお子さんに聞かれたときに、性教育の第一歩です。性器やおっぱいは命の元としても大事なところだよと教えながら、手帳を見せ、どれほど皆に喜ばれて生まれた命かを伝えてください。ほしいと願っています。

### 自分で守ろう、自分のからだ 子宮頸がんは「予防できるがん」

子宮頸がん検診を受けるには?

- 健康保険組合に加入の方 → 健康保険組合へ問い合わせ
- 国民健康保険に加入の方 → 自治体の保健所・保健センターへ問い合わせ

「愛は子宮を救う in 長野」ホームページ [www.love49nagano.com/](http://www.love49nagano.com/) で、県内の検診実施医療機関一覧を見ることができます!

- 主催/長野県細胞検査士会
- 共催/信濃毎日新聞社・長野県臨床細胞学会・信州産婦人科連合会・長野市産婦人科医会・いのちの応援舎長野支部
- 後援/厚生労働省・長野県・長野県教育委員会・長野市・長野市教育委員会・千曲市・千曲市教育委員会・松本市・上田市・小諸市・佐久市・諏訪市・伊那市・大町市・安曇野市・飯田市・(一社)長野県医師会・(一社)長野市医師会・(一社)更級医師会・(一社)松本市医師会・(一社)長野県臨床検査技師会・(公社)長野県看護協会・(一社)長野県助産師会・(一社)長野市薬剤師会・(公社)長野県健康づくり事業団・(一財)全日本労働福祉協会長野県支部・日本赤十字社長野県支部・信州大学医学部附属病院・信州大学医学部 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」・長野赤十字病院・長野市市民病院・NHK長野放送局・SBC信越放送・NBS長野放送・TSBテレビ信州・abn長野朝日放送・FM長野
- 特別協賛/オリオン機械株式会社・農事組合法人510 ファーム・中部メディカル有限公司・長野県厚生農業協同組合連合会・ホクト株式会社・穂高病院・ほりうちレディースクリニック・日本デルモンテ(株)
- 運営協力/櫛共和コーポレーション

自分や大切な人の命を、未来を守るため



こてつ 北村さん(左)と河合さん

子宮を救い隊長のこてつ(よしもと)と長野県住みます芸人の2人もディスカッションに参加しました

「予防ワクチンの現状は」  
増田 子宮頸がん予防ワクチンの接種は海外では2006年に始まり、日本では13年に小学6年・高校1年の女子を対象に無料の定期接種となりました。ワクチンは2種類あり、どちらも半年間に3回接種を行います。しかし定期接種になっても間もなく接種後の健康への影響が報告され、国はワクチンの積極的な接種勧奨を一時差し控えるとして現在に至ります。

100%副反応がない予防接種はありません。子宮頸がん予防ワクチンの場合、比較的軽い副反応として発熱や注射部位の腫れ、まれにアナフィラキシーや慢性的な運動障害など重い副反応が10万~100万回接種に1回程度起きると言われており、これらについて国が全国調査を実施中です。

世界では子宮頸がん予防ワクチン開始から10年以上がたち、導入国ではHPV感染率の低下が報告されています。近い将来、検診とワクチンを組み合わせることで子宮頸がんによる死者を100%なくせるようになることを期待しています。

ワクチン接種の選択肢は三つあり、①これからも接種を受けたい②国が積極的な勧奨を再開するまで様子を見る③今でも希望すれば無料で受けられるので、近いうちに受けに行く。かかりつけ医とも相談しながら各家庭でよく話し合いつつ、ゆつりと決めてください。

がん剤治療を受けました。転移を聞いたときは奈落の底に突き落とされた気持ちでしたし、抗がん剤治療もとてもつらかった。半年間のつらい治療の後、経過観察のため5年間の通院が必要でした。進行してしまうと、日常生活にも支障をきたします。若い方にも検診を日常に取り入れてほしいと思います。

赤羽 私は検診で、「異形成」の細胞が見つかり、子宮の入り口を少し焼き切る手術を受け、3泊4日で退院しました。術後2週間で演奏の仕事に戻り、1カ月後にはハードなレコーディングの現場にも復帰できていました。肉体的にも経済的にも、負担はかかなり軽かったです。

山本 子宮頸がんの手術は、赤羽さんのように早期であれば悪い部分を局所的に切除する、鈴木さんのように進行すると子宮全体と周辺を広く摘出する、大きくその二つに分かれます。後者は後遺症も少なくありません。女性の結婚や初産の年齢が上がり、妊娠して初めて産婦人科を受診して子宮頸がんが見つかる例もあります。早期なら妊娠・出産が可能です。進行して発見されるケースもあり、そうなる妊娠を諦めて子宮を摘出しないと命に関わる。できる限り早期に発見することが大事です。